

突然起こるアナフィラキシー

あなたならどうする?!

～アレルギーから子供を守る～



(監修)川崎幸クリニック 看護師/小児アレルギーエドゥケーター 望月 勢津子

『免疫』・『アレルギー』とは？

『免疫』とは？
異物が体内に入ってきた時に**体を守ろうとする仕組み**



『アレルギー』とは？
人の体を守るための仕組みである『免疫』が**過剰に働くこと**によってかゆみ、くしゃみ、湿疹、炎症などの様々な症状を引き起こす状態

原因物質(アレルゲン)は何？

アナフィラキシーの原因は食物・ダニ・カビ・花粉・動物・医薬品・ほこり・蜂などです。
食べ物がもっとも多く、続いて蜂などの昆虫、薬物となっています。



食物

アレルギーのタイプと症状

■ アレルギーのタイプ

症状のパターン		主な症状	主な年齢	アナフィラキシー ショックの可能性	頻度の 高い食物
新生児・乳幼児 消化管アレルギー		下痢や血便	新生児 ～乳児	+/-	牛乳
食物アレルギーの関与する 乳児アトピー性皮膚炎		湿疹	乳児	+	鶏卵 牛乳 小麦 大豆 など
即時型症状		蕁麻疹や咳など 様々	乳幼児 ～成人	++	年齢により異なる
特殊型	食物依存性運動誘発 アナフィラキシー	アナフィラキシー	学童 ～成人	+++	小麦 甲殻類 など
	口腔アレルギー症候群 (花粉・フルーツ症候群)	口の中の違和感	幼児 ～成人	+/-	果物 野菜 など

■ アレルギーの症状

皮膚・粘膜症状	消化器症状	呼吸器症状
■ 眼 充血、眼のまわりのかゆみ、涙目	下痢、気持ちが悪い、吐き気、嘔吐、 血便	くしゃみ、鼻づまり、鼻水、咳、息が苦しい (呼吸困難)、ゼーゼー・ヒューヒュー(喘 鳴)、犬が吠えるような甲高い咳、のどが 締め付けられる感じ
■ 口腔 口腔、唇、舌の違和感、腫れ	神経症状 元気がない、ぐったり、意識もうろ う、尿や便を漏らす	循環器症状 脈が速い・触れにくい・乱れる、手足が冷た い、唇や爪が青白い(チアノーゼ)、血圧低 下
■ 皮膚 かゆみ、じんましん、むくみ、赤く なる、湿疹	全身症状 アナフィラキシー	

どんな場面で起こる？

アレルギー症状が起きる可能性のある場面として、以下のようなことが考えられます。

- **給食** 食品はもちろん、牛乳パックの液だれにも注意
- **体育や部活動** 食後の体育や部活動は要注意
- **運動会や宿泊学習、遠足などの野外活動** 食後の運動だけでなく、蜂などの昆虫にも注意
- **調理実習や理科の授業** 食べるだけでなく触れること、天然ゴム製品のアレルギーにも注意
- **動物小屋の掃除** …など



突然起こるアナフィラキシー あなたならどうする?!

～アレルギーから子供を守る～



(監修)川崎幸クリニック 看護師/小児アレルギーエドゥケーター 望月 勢津子

生徒にアレルギー症状がでた! >>>



『食物アレルギー緊急時対応マニュアル』を用いて、緊急性の対応を行ってみましょう。

※『食物アレルギー緊急時対応マニュアル』は『東京都健康安全研究センター 企画調整部健康危機管理情報課』発行、各都道府県や市の教育委員会で一部改定されたものがそれぞれ発行されています。

参考:東京都福祉保健局 東京都アレルギー情報navi./食物アレルギー緊急時対応マニュアル

- ① まずは**大声で応援を呼びましょう!**
大声で人を呼んだり、近くの生徒に他の教職員(大人)をできるだけたくさん呼ぶように伝えましょう。
- ② 人が集まったら、**第一発見者の教職員を中心に役割分担**を行い、それぞれ指示に従い、行動しましょう

<役割分担の例>

教職員A **第1発見者がリーダー、役割を指示**

教職員B AED・エピペン・内服薬など、

緊急時に必要なものをもってくる

教職員C マニュアルを持ってくる・記録をつける

教職員D エピペンの介助、救急車を呼ぶ

教職員E エピペンの介助、保護者へ連絡する

※対応する人数によっては役割が重複する場合があります。臨機応変に対応していきましょう!

- ③ 緊急時対応マニュアルに沿って**緊急性の判断**をしましょう
緊急時対応マニュアルに沿って判断を行います。マニュアルFページ『症状チェックシート』を開き、生徒の症状を記録・チェックしていきます。
⇒緊急性が非常に高い場合

④ ① 観察を開始した時刻を記入

② 症状のチェックを行う

- ④ **ただちにエピペン®を使用しましょう!**



エピペン®を持っていた場合

マニュアルCページ『エピペン®の使い方』を参考に、**エピペン®を使用**します。エピペン®を使用した時刻も忘れずに記録しましょう。



エピペン®を持っていない場合

その場で**安静を保つ体位**にしましょう。立たせたり、歩かせたりしないこと!

- ⑤ **可能なら内服薬を飲ませましょう!**



内服薬を持っていた場合

医師の処方に従い、**内服薬を使用**します。内服薬を使用した時刻も忘れずに記載しましょう。

- ⑥ **ただちに救急要請をしましょう!**
緊急性が非常に高い場合、**エピペン®を使用した、しないにかかわらず、すぐに救急要請**を行きましょう。
マニュアルDページ『救急要請のポイント』を参考に救急要請を行います。

- ⑦ その場で**安静を保つ体位**にし、救急隊を待ちます。

- ⑧ **反応がなく、呼吸がなければ、マニュアルEページ『心肺蘇生とAEDの手順』**を参考に、**迷わず心肺蘇生**を!

いざというとき、戸惑っている時間はありません。**強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫**を行い、救急隊に引き継ぐまで、または普段通りの呼吸が認められるまで続けましょう。

緊急性がなかったから、と安心してはいけません。症状のパターンは人によって異なり、いつも同じとは限りません。初めは症状が軽くても、症状が進んで重症になることもあります。**アレルギー症状を疑ったら、繰り返し観察をすることが大切です。**